

【経営の概要】

- ・本県のキク産出額は25.6億円で、花き産出額の約40%を占める。キク生産のほとんどが輪ギクであり、主要品種は「神馬」、「岩の白扇」である。
- ・産地は本土地区に集中し、特に近年、島原、県央地区での生産が増え、1戸当たりの施設面積も70aを越える企業的花き生産者が増加している。

【対策の内容】

- ・秋ギク主要品種「神馬」は高温管理を必要とするため、数年前からの低温開花性系統への移行を図ったが、従来の系統と比較して、伸長性やボリューム不足などに問題があり、移行が十分進まなかった。
- ・そのため、本県農林試験場で切花品質に優れた低温開花性系統「長崎2」を新たに選抜し、昨年から県キク部会、各普及センターの協力を得て、県下の生産組織で現地試験を実施。その結果、生産及び品質面で一定の評価が得られた。
- ・県キク部会の現地研修会や温度管理等を示した本系統の栽培推進チラシ及び栽培マニュアルの配布を行い、生産者、関係者に生育特性や栽培面での注意点を説明。
- ・本年度作付けについては、一部導入も含めて、本県の生産組織の約2/3の組織で導入する予定。



長崎2 (神馬の低温開花性系統)
—重油高騰時代の切り札—



長崎県農林試験場、長崎県農産普及センター

【対策の実践効果】

- ・2月開花における生育特性

系統名	収穫期間	切花長(cm)	90cm 調製重(g)	摘芽・摘蕾数
従来の低温開花性系統	2/7～11	92.4	82.6	25.8
長崎2	2/1～3	102.3	73.7	18.7

※2月中旬開花作型における暖房コスト試算では、従来の「神馬」と比較して、「長崎2」を導入することにより、33.8%の暖房コスト削減が可能。

※上記については、長崎県総合農林試験場の試験研究成果より抜粋（2007年）

【今後の課題】

- ・生産面で温度管理の徹底等、生産技術の改善を図る必要がある。また燃油高騰が急速に進んでおり、燃油を最も必要とする2月～4月出荷では、本系統の導入だけでなく、様々な対策を検討する必要がある。

【問い合わせ先】

長崎県農産園芸課技術普及班 電話：0957-25-1058

